



日本年金機構

Japan Pension Service

平成28年度「ねんきん定期便」(59歳)

平成28年4月～

「ねんきん定期便」をお送りします。

「ねんきん定期便」は、国民年金および厚生年金保険に加入している皆様に、年金加入記録をご確認いただくとともに、年金制度に対するご理解を深めていただくことを目的として、年金加入期間や老齢年金の見込額などに関する情報をお送りするものです。

「ねんきんネット」で「ねんきん定期便」の郵送を不要とご登録いただいた方であっても、節目年齢(35歳、45歳、59歳)では「ねんきん定期便」をお送りしています。

お知らせした年金加入記録に「もれ」や「誤り」がある場合は、同封の「年金加入記録回答票」でご回答ください。(「もれ」や「誤り」がない場合は、ご回答いただく必要はありません。)

○ねんきん定期便

- ・「これまでの年金加入期間」、「老齢年金の見込額」……………B-1ページ
- ・「(参考)これまでの保険料納付額」……………B-2ページ
- ・これまでの『年金加入履歴』です。……………B-3ページ
- ・これまでの厚生年金保険における標準報酬月額などの月別状況です。…B-4厚ページ
(厚生年金保険の加入履歴がある方のみ同封しています。)
- ・これまでの国民年金保険料の納付状況です。……………B-4国ページ
(国民年金の加入履歴がある方のみ同封しています。)

同封した書類

○「ねんきん定期便」の見方ガイド

○年金加入記録回答票、返信用封筒

「ねんきん定期便」には個人情報に記載されていますので、大切に保管してください。

日本年金機構ホームページのご案内

「ねんきん定期便」の見方、年金事務所の所在地などについては、
日本年金機構のホームページ (<http://www.nenkin.go.jp/>) をご覧ください。

「ねんきんネット」のご案内

- 「ねんきんネット」では、24時間いつでも、ご自宅のパソコンやスマートフォンで、すべての期間の年金加入記録を確認できます。
 - 「年金を受け取る年齢を繰り上げた場合」、「働きながら年金を受け取る場合」など、さまざまな条件に応じた年金見込額を試算できます。
 - 「ねんきんネット」では、郵送による「ねんきん定期便」に代えて、電子版「ねんきん定期便」で年金加入記録などを確認できます。
 - 「ねんきんネット」のご利用の登録には、ご自身の基礎年金番号が必要です。
 - ご利用の登録後、「ねんきんネット」のご利用に必要な「ユーザID」を郵送でお知らせいたします（5日間程度かかります）。
- ぜひ、「ねんきんネット」をご利用ください。

【ご利用登録】

1. 登録画面へ！

http://www.nenkin.go.jp/n_net/

2. 必要事項を入力！

- 1 基礎年金番号
- 2 メールアドレス
- 3 お客様の情報（氏名、生年月日）
などを入力

3. ハガキをお送りします！

お申し込み後5日間程度で、ユーザIDをお知らせするハガキを郵送します。

お問い合わせは『ねんきん定期便・ねんきんネット等専用ダイヤル』へ



0570-058-555

※お客様の電話番号が050から始まる場合は、

03-6700-1144 へお電話ください。

お問い合わせの際は、基礎年金番号をお知らせください。

【受付時間】月～金曜日：午前9時～午後7時まで
第2土曜日：午前9時～午後5時まで

※祝日、12月29日～1月3日は、ご利用いただけません。

ねんきん定期便



日本年金機構
Japan Pension Service

〒168-8505

東京都杉並区高井戸西3丁目5番24号

様の「ねんきん定期便」です。

この「ねんきん定期便」は、下記の時点で作成しており、
平成 年 月までの年金加入記録を表示しています。

国民年金および 一般厚生年金期間	公務員厚生年金期間 (国家公務員・地方公務員)	私学共済厚生年金期間 (私立学校の教職員)
平成 年 月 日	平成 年 月 日	平成 年 月 日

基礎年金番号	公務員共済の加入者番号	私学共済の加入者番号

(お問い合わせの際は、基礎年金番号をお知らせください。)

このお知らせは、見方ガイドの2～3ページをご覧ください。

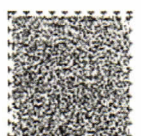
1. これまでの年金加入期間 (老齢年金の受け取りには、原則として300月以上の受給資格期間が必要です。)

国民年金 (a)			船員保険 (c)	年金加入期間 合計 (未納月数を除く)	合算対象期間等 (d)	受給資格期間 (a+b+c+d)
第1号被保険者 (未納月数を除く)	第3号被保険者	国民年金 計 (未納月数を除く)				
月	月	月	月	(a+b+c)	(d)	(a+b+c+d)
厚生年金保険 (b)				月	月	月
一般厚生年金	公務員厚生年金 (国家公務員・地方公務員)	私学共済厚生年金 (私立学校の教職員)	厚生年金保険 計			
月	月	月	月			

2. 老齢年金の見込額 (加入状況の変化や毎年の経済の状況など種々の要因により変化します。あくまで参考としてください。)

受給開始年齢		歳～	歳～	歳～	歳～	
年金の種類と年金額 (1年間の受取見込額)	(1) 国民年金				老齢基礎年金	
					円	
	(2) 厚生年金保険	特別支給の老齢厚生年金	特別支給の老齢厚生年金	特別支給の老齢厚生年金	老齢厚生年金	
		一般厚生年金期間		(報酬比例部分)	(報酬比例部分)	(報酬比例部分)
				円	円	円
		公務員厚生年金期間 (国家公務員・地方公務員)	(定額部分)	(定額部分)	(定額部分)	(定額部分)
				円	円	円
			(報酬比例部分)	(報酬比例部分)	(報酬比例部分)	(報酬比例部分)
				円	円	円
		私学共済厚生年金期間 (私立学校の教職員)	(定額部分)	(定額部分)	(定額部分)	(定額部分)
				円	円	円
			(報酬比例部分)	(報酬比例部分)	(報酬比例部分)	(報酬比例部分)
				円	円	円
		1年間の受取見込額		円	円	円

※このマークは音声コードです。
目の不自由な方に、ご自身の
年金加入記録に関する情報を音声
でご案内します。



このお知らせは、見方ガイドの4～5ページをご覧ください。

(参考) これまでの保険料納付額

(1) 国民年金		国民年金保険料 (第1号被保険者期間)	
		(累計額)	円
(2) 厚生年金保険		厚生年金保険料 (被保険者負担額)	
一般厚生年金期間		(累計額)	円
公務員厚生年金期間 (国家公務員・地方公務員)		(累計額)	円
私学共済厚生年金期間 (私立学校の教職員)		(累計額)	円
これまでの保険料納付額【(1) + (2)】		(累計額)	円

【備考欄】

お問い合わせ先

『ねんきん定期便・ねんきんネット等専用ダイヤル』

お問い合わせの際は、基礎年金番号をお知らせください。

※お客様の電話番号が050で始まる場合は



0570-058-555

03-6700-1144 (一般電話)

【受付時間】月～金曜日：午前9時～午後7時まで

第2土曜日：午前9時～午後5時まで

※祝日、12月29日～1月3日はご利用いただけません。

ご利用にあたっての留意事項

- ・ナビダイヤルは、一般の固定電話からおかけになる場合は、全国どこからでも市内通話料金でご利用できます。ただし、一般固定電話以外(携帯電話等)からおかけになる場合は、通常の通話料金となります。
- ・「0570」の最初の「0」を省略したり、市外局番を付けて間違い電話になるケースが発生しています。おかけ間違いのないよう、ご注意ください。
- ・月曜日などの休日明けやお手元に通知書が届いた直後(5日間程度)は、電話がつながりにくくなります。週の後半や月の後半はつながりやすくなっています。
- ・オンライン端末の稼働時間によっては、ご照会の回答が翌日以降になる場合があります。

これまでの『年金加入履歴』です。

表示している『年金加入履歴』に「もれ」や「誤り」がないかご確認ください。
(このお知らせは、見方ガイドの6～9ページをご覧ください。)

①番号	②加入制度	③お勤め先の名称等	④資格を 取得した年月日	⑤資格を 失った年月日	⑥加入月数
1	厚年	厚生年金保険 (基金加入期間	平成 4. 4. 1	平成 5.10. 1	18
			平成 4. 4. 1	平成 5.10. 1	)
2	国年	第1号被保険者 (空いている期間があります。	平成 5.10. 1	平成 7. 4. 1	18
					)
3	厚年	東京株式会社	平成 7.10. 1	平成16. 4. 1	102
4	国年	第3号被保険者	平成16. 4. 1		120

⑦国民年金 (a)										⑧船員保険 (c)	
納付済 月数	全額免除 月数	半額免除 月数	4分の3 免除月数	4分の1 免除月数	学特等 月数	第3号 月数	納付済等 月数 計	付加保険料 納付済月数 (再掲)	未納月数 (※)	加入月数	加入期間
14	0	0	0	0	0	120	134	(0)	1	0	0
⑨厚生年金保険 (b)								⑩年金加入 期間合計 (未納月数を除く)			
一般厚生年金(厚年)		公務員厚生年金(公共)		私学共済厚生年金(私学)		厚生年金保険 計		⑪合算対象期間等 (a+b+c)		⑫受給資格期間 (d)	(a+b+c+d)
加入月数 (基金)	加入期間 (基金)	加入月数 (経過の職域)	加入期間 (経過の職域)	加入月数 (経過の職域)	加入期間 (経過の職域)	加入月数 (基金)	加入期間 (基金)				
120 (18)	120 (18)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	120 (18) (0)	120 (18) (0)	254		3	257

※納付期限内に保険料を納めた場合であっても(口座振替も同様)、情報が反映されるまで最大3週間程度かかることがあるため、
「未納月数」に含まれている場合があります。

これまでの厚生年金保険における標準報酬月額などの月別状況です。

表示している金額が当時の報酬と大幅に相違していないかご確認ください。

(このお知らせは、見方ガイドの10～11ページをご覧ください。)

年度	種別	標準報酬月額と保険料納付額の月別状況											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
※ブランク（空白）となっている月は、厚生年金保険に加入していないことを示します。なお、国民年金に加入している月の場合も、同様にブランクで示されますので、B-3の『年金加入履歴』とあわせてご確認ください。													
	標準報酬月額 標準賞与額 保険料納付額												
	標準報酬月額 標準賞与額 保険料納付額												
	標準報酬月額 標準賞与額 保険料納付額												
	標準報酬月額 標準賞与額 保険料納付額												
	標準報酬月額 標準賞与額 保険料納付額												
	標準報酬月額 標準賞与額 保険料納付額												
	標準報酬月額 標準賞与額 保険料納付額												
	標準報酬月額 標準賞与額 保険料納付額												
	標準報酬月額 標準賞与額 保険料納付額												
	標準報酬月額 標準賞与額 保険料納付額												
	標準報酬月額 標準賞与額 保険料納付額												
	標準報酬月額 標準賞与額 保険料納付額												
	標準報酬月額 標準賞与額 保険料納付額												
	標準報酬月額 標準賞与額 保険料納付額												
	標準報酬月額 標準賞与額 保険料納付額												
	標準報酬月額 標準賞与額 保険料納付額												
	標準報酬月額 標準賞与額 保険料納付額												
	標準報酬月額 標準賞与額 保険料納付額												
	標準報酬月額 標準賞与額 保険料納付額												

(このお知らせは、見方ガイドの12～13ページをご覧ください。)

※昭和51年以前の国民年金保険料の納付状況の一部については、年度単位で管理しているものがあり、各月毎の納付状況が確認できない場合があります。その場合の月別納付状況欄は「***」が表示されます。

電子版「ねんきん定期便」をご利用ください。

- 「ねんきんネット」では、平成24年4月から、全期間の最新の年金加入記録を、いつでもご自宅のパソコンなどで確認できる**電子版「ねんきん定期便」**のサービスを開始しています。
- 日本年金機構では、郵送費用などのコスト削減や地球環境保全への取組として、「ねんきん定期便」の郵送に代えて、**電子版「ねんきん定期便」**のご利用を推奨しています。
- この取組にご協力いただける場合は、「ねんきんネット」にご利用登録（ログイン）の上、「ねんきん定期便」の郵送希望の登録で「希望しない」を選択してください。
- 電子版「ねんきん定期便」**をご利用のお客様であっても、節目年齢（35歳、45歳、59歳）では、これまでどおり書面の「ねんきん定期便」を郵送します。

（住民票コード収録済の方用）

（住民票コード未収録の方用）

「住民票コード」の収録状況について

- 日本年金機構では、年金請求書などの重要なお知らせを確実にお届けするために、住所や氏名の把握を行っています。
- そのため、日本年金機構では、保有しているお客様の情報（氏名、性別、生年月日、住所）に基づき、住民基本台帳ネットワークシステムで本人確認を行い、本人確認ができたお客様の基礎年金番号と住民票コードを結び付ける（基礎年金番号の情報として収録する）作業を進めています。
- お客様の住民票コードは「**収録済**」の状態となっていますので、住民票コードをお届けいただく必要はありません。
- 60歳到達以降に、国民年金、厚生年金保険または船員保険に加入しなくなった場合、その後に住所を変更したときの「住所変更届」の提出が不要となります。
- ※住民票コードは、市区町村が発行する「住民票コード通知書（票）」に記載されています。
また、市区町村の窓口で「住民票コード記載の住民票の写し」の交付を請求することができます。

「住民票コード」のお届けにご協力ください。

- 日本年金機構では、年金請求書などの重要なお知らせを確実にお届けするために、住所や氏名の把握を行っています。
- そのため、日本年金機構では、保有しているお客様の情報（氏名、性別、生年月日、住所）に基づき、住民基本台帳ネットワークシステムで本人確認を行い、本人確認ができたお客様の基礎年金番号と住民票コードを結び付ける（基礎年金番号の情報として収録する）作業を進めています。
- お客様の住民票コードは「**未収録**」の状態となっています。
お手数ですが、ご自身の住民票コードを、お近くの年金事務所までお届けください。
 - ※共済組合に加入中の方は、年金事務所への住民票コードのお届けは不要です。
 - ※住民票コードをお届けいただくことで、60歳到達以降に、国民年金、厚生年金保険または船員保険に加入しなくなった場合、その後に住所を変更したときの「住所変更届」の提出が不要となります。
 - ※住民票コードは、市区町村が発行する「住民票コード通知書（票）」に記載されています。
また、市区町村の窓口で「住民票コード記載の住民票の写し」の交付を請求することができます。

「住民票コード」の収録状況に関するお問い合わせは
『ねんきん定期便・ねんきんネット等専用ダイヤル』へ！



0570-058-555

お問い合わせの際は、基礎年金番号をお知らせください。

※お客様の電話番号が050から始まる場合は、

03-6700-1144 へお電話ください。

【受付時間】月～金曜日：午前9時～午後7時まで
第2土曜日：午前9時～午後5時まで

※祝日、12月29日～1月3日は、ご利用いただけません。



0570-058-555

お問い合わせの際は、基礎年金番号をお知らせください。

※お客様の電話番号が050から始まる場合は、

03-6700-1144 へお電話ください。

【受付時間】月～金曜日：午前9時～午後7時まで
第2土曜日：午前9時～午後5時まで

※祝日、12月29日～1月3日は、ご利用いただけません。

老齢年金の繰上げ請求について

◆老齢年金の受給開始年齢が引き上げられます。

- 厚生年金保険に1年（12月）以上加入していた方は、特別支給の老齢厚生年金を受け取れます。
- 平成12年の法律改正により、特別支給の老齢厚生年金（報酬比例部分）の受給開始年齢が平成25年度から平成37年度にかけて（平成25年度に60歳になる男性から）段階的に60歳から65歳へ引き上げられます。
- 特別支給の老齢厚生年金の受給開始年齢は、生年月日や性別によって異なりますので、詳しくは、日本年金機構のホームページ（<http://www.nenkingo.jp/>）でご確認ください。

◆老齢年金の繰上げ請求ができます。

- 特別支給の老齢厚生年金（報酬比例部分）の受給開始年齢の引き上げに伴い、60歳前半における老齢厚生年金の繰上げ請求ができるようになりました。
- 老齢厚生年金は、原則として、受給開始年齢から受け取れますが、受給開始年齢になる前でも、60歳以降であれば、請求することにより繰り上げて年金を受け取れます。

<繰上げ請求する場合に必要な条件>

- ①昭和28年4月2日から昭和36年4月1日までの間に生まれた男性の方
昭和33年4月2日から昭和41年4月1日までの間に生まれた女性の方
 - ・特別支給の老齢厚生年金の受給要件を満たしている。
 - ・60歳以上であり、かつ特別支給の老齢厚生年金の受給開始年齢未満である。
 - ・国民年金の任意加入被保険者となっていない。
- ②昭和36年4月2日以降に生まれた男性の方
昭和41年4月2日以降に生まれた女性の方
 - ・老齢厚生年金の受給要件を満たしている。
 - ・60歳以上65歳未満である。
 - ・国民年金の任意加入被保険者となっていない。

<繰上げ請求する場合の注意点>

- ・年金額は、生涯にわたって減額されます。
- ・老齢基礎年金と老齢厚生年金を同時に繰上げ請求することになります。
一方のみを繰上げ請求することはできません。
- 老齢年金の繰上げ請求を希望する場合は、年金見込額や手続き方法を含め、**お近くの年金事務所、街角の年金相談センター**にお問い合わせください。
また、制度に関する一般的なお問い合わせは「**ねんきんダイヤル**」をご利用ください。

老齢年金の受給開始年齢の引上げ、繰上げ請求に関する一般的なお問い合わせは

『ねんきんダイヤル』へ



0570-05-1165

※お客様の電話番号が050から始まる場合は、

03-6700-1165 へお電話ください。

【受付時間】月 曜 日：午前8時30分～午後7時まで
火～金曜日：午前8時30分～午後5時15分まで
第2土曜日：午前9時30分～午後4時まで
※祝日、12月29日～1月3日は、ご利用いただけません。

～障害年金をご存知ですか～

障害年金は、年金加入中の病気やけがによって生活や仕事などが制限されるようになった場合に、現役世代の方も含めて請求することができます。

【障害年金の対象となる病気やけが】

交通事故による腕や足の切断、脳梗塞による後遺障害、慢性腎不全による人工透析を行っている場合、うつ病や知的障害など広範囲に渡ります。

【障害年金の種類】

病気やけがで初めて医師の診療を受けた日（初診日）において、国民年金に加入中の方は国民年金から「障害基礎年金」を受け取ることができます。

※20歳前に初診日がある病気やけがも「障害基礎年金」の対象となります。

障害基礎年金	1級	月額	約81,000円	(平成28年度)
障害基礎年金	2級	月額	約65,000円	

初診日において、会社などにお勤めの方は、厚生年金保険に加入していた期間の長さや給料に応じて、「障害厚生年金」を受け取ることができます。

※「障害厚生年金」は、1級から3級まであり、障害の程度が1級または2級の場合、「障害基礎年金」に加え「障害厚生年金」が上乘せされます。

障害年金を受け取るための要件は、障害の程度が国の定める基準以上であることに加え、保険料の納付状況、年齢などがあります。

詳細は下記までお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

具体的な請求に関するお問い合わせは、お近くの年金事務所、街角の年金相談センターにご相談ください。

日本年金機構のホームページもご利用ください。

日本年金機構

検索

障害年金の概要、全国の年金事務所の所在地と電話番号などがご確認いただけます。

障害年金の制度に関する一般的なお問い合わせは、『ねんきんダイヤル』もご利用いただけます。



【ねんきんダイヤル】

0570-05-1165

※050で始まる電話でおかけになる場合は、
03-6700-1165 へお電話ください。

【受付時間】 月 曜 日 午前8時30分～午後7時
火～金曜日 午前8時30分～午後5時15分
第2土曜日 午前9時30分～午後4時

※月曜日が祝日の場合は、翌開所日に午後7時まで相談をお受けします。
※祝日（第2土曜日を除く）、12月29日～1月3日はご利用いただけません。

年金加入記録に「もれ」や「誤り」があった場合の手続きの流れ

お知らせした年金加入記録を十分にご確認ください。
・「ねんきん定期便」の見方は、2～13ページをご覧ください。

「もれ」や「誤り」がある

「もれ」や「誤り」がない

ご回答いただく必要はありません。

「年金加入記録回答票」を記入してください。

・記入方法は「年金加入記録回答票」の裏面をご覧ください。

「年金加入記録回答票」を返送してください。

・同封の返信用封筒に「年金加入記録回答票」を入れ、ポストに投函してください。

日本年金機構において年金加入記録の調査・確認を行います。

・調査・確認の結果をお送りするまでに相当期間がかかりますことをご容赦ください。

年金加入記録の統合（確認完了）

お問い合わせ先

『ねんきん定期便・ねんきんネット等専用ダイヤル』

お問い合わせの際は、基礎年金番号をお知らせください。

※お客様の電話番号が050で始まる場合は
 **0570-058-555** **03-6700-1144**（一般電話）

【受付時間】月～金曜日：午前9時～午後7時まで

第2土曜日：午前9時～午後5時まで

※祝日、12月29日～1月3日はご利用いただけません。

ご利用にあたっての留意事項

- ・ナビダイヤルは、一般の固定電話からおかけになる場合は、全国どこからでも市内通話料金でご利用できます。ただし、一般固定電話以外（携帯電話等）からおかけになる場合は、通常の通話料金となります。
- ・「0570」の最初の「0」を省略したり、市外局番を付けて間違い電話になるケースが発生しています。おかけ間違いのないよう、ご注意ください。
- ・月曜日などの休日明けやお手元に通知書が届いた直後（5日間程度）は、電話がつながりにくくなります。週の後半や月の後半はつながりやすくなります。
- ・オンライン端末の稼働時間によっては、ご照会の回答が翌日以降になる場合があります。

「ねんきん定期便」の見方ガイド（50歳以上の方用）

このパンフレットは「ねんきん定期便」をご覧になるときに参照ください。
また、お送りした「ねんきん定期便」は、大切に保管しておいてください。

被用者年金制度の一元化について

平成27年10月1日に「被用者年金制度の一元化等を図るための厚生年金保険法等の一部を改正する法律」（平成24年法律第63号）が施行されました。同日以降、会社員・公務員の区別なく、同額の報酬であれば同額の保険料を負担し、同額の公的年金給付を受け取るという公平性を確保することで、公的年金全体に対する国民の信頼を高めるため、厚生年金保険制度に公務員および私立学校の教職員も加入することとなりました。

※被用者年金制度の一元化後は、現に加入している（または最後に加入していた）公的年金制度とその被保険者種別に応じて、各実施機関から「ねんきん定期便」をお送りします。

公的年金制度と被保険者種別	「ねんきん定期便」を送付する実施機関
国民年金の第1号被保険者および第3号被保険者	日本年金機構（厚生労働大臣から受託）
厚生年金保険の一般厚生年金被保険者	
厚生年金保険の国共済厚生年金被保険者 （国家公務員共済組合の組合員）	国家公務員共済組合連合会
厚生年金保険の地共済厚生年金被保険者 （地方公務員共済組合の組合員）	地方職員共済組合（地方共済事務局・団体共済部）、 公立学校共済組合、警察共済組合、東京都職員共済組合、 全国市町村職員共済組合連合会（市町村職員共済組合、 都市職員共済組合、指定都市職員共済組合）
厚生年金保険の私学共済厚生年金被保険者 （私立学校教職員共済制度の加入者）	日本私立学校振興・共済事業団

ご自身の年金加入記録に「もれ」や「誤り」はありませんか？

これまで、皆様に「ねんきん特別便」や「ねんきん定期便」などのお知らせをご確認いただき、「もれ」や「誤り」がある旨ご回答いただいた方のうち、多くの方の年金加入記録が回復しています。

お勤めされていた期間が短期間であっても、年金の受け取りに結び付く可能性があります。

さらに、消費税率10%への引き上げ時（平成29年4月）に、老齢年金の受け取りに必要な年金加入期間が25年（300月）から10年（120月）に短縮することが予定されています。

ご自身の年金加入記録をご確認いただき、「もれ」や「誤り」があると思われる方は、「ねんきん定期便」に同封している「年金加入記録回答票」でご回答いただきますようお願いいたします。

「ねんきん定期便」の見方①

1. これまでの年金加入期間

a 「国民年金 第1号被保険者」欄

- ◆保険料を納めている期間および保険料が免除された期間の月数を表示しています。
※3/4免除など、保険料の一部が免除された期間は、免除後の残金の保険料を納めている場合に限り納付済月数に含まれます。
- ◆保険料を前納している期間は、この「ねんきん定期便」の作成年月日以降の期間であっても、納付済月数に含めて表示しています。

b 「国民年金 第3号被保険者」欄

- ◆現在、第3号被保険者の期間として登録されている月数を表示しています。

国民年金の第3号被保険者とは

- ・昭和61年4月以降の期間で、年収が130万円未満で20歳以上60歳未満の方が、厚生年金保険（各共済組合制度を含みます。以下同じ）に加入している配偶者（第2号被保険者）に扶養されている場合、この方を「第3号被保険者」といいます。
- ・第3号被保険者の国民年金保険料は、配偶者（第2号被保険者）が加入している厚生年金保険が一括して負担しますので、個別に納めていただく必要はありません。

種別変更届の提出のお願い

- ◆第3号被保険者の期間として登録されている期間であっても、次の期間は第1号被保険者に該当します。
 - ・配偶者が厚生年金保険の被保険者の資格を喪失していた期間
 - ・ご自身の収入が増加したことにより、配偶者の扶養から外れていた期間
 - ・配偶者が厚生年金保険の被保険者であるが65歳以上（年金を受け取る権利がある方）の期間

- ・第1号被保険者に該当している場合は、住所の市（区）町村の国民年金担当窓口へ種別変更の届出が必要となりますので、忘れずに届出してください。
※すでに種別変更の届出を行っていても、この「ねんきん定期便」の作成年月日までに国のシステムへの登録が間に合わなかったため、表示が異なっている場合があります。

特定期間該当届の提出のお願い

- ・実際は第1号被保険者であるが、上記の種別変更の届出が行われていないため、そのまま第3号被保険者として登録されている期間を「3号不整合期間」といいます。この期間は「保険料未納期間」として取り扱われます。
- ・この「3号不整合期間」のうち、これを訂正した時点において、国民年金保険料の徴収時効が成立して納められなくなった期間を、「時効消滅不整合期間」といいます。※国民年金保険料は納付期限から2年を経過すると時効で納めることができません。
- ・「時効消滅不整合期間」がある場合は、「時効消滅不整合期間に係る特定期間該当届」を提出することにより、「特定期間」として受給資格期間に算入できるようになります。お心当たりの方は、年金事務所にお問い合わせください。

c 「合算対象期間等」欄

- ◆「合算対象期間」および「特定期間」の合計月数を表示しています。年金額には反映されませんが、受給資格期間に算入されます。
- ◆「合算対象期間」となる期間は複数ありますが、この「ねんきん定期便」では、国民年金に任意加入している期間のうち保険料を納めていない期間（任意加入未納期間）の月数を表示しています。
※この任意加入未納期間は参考であり、年金を請求するときに書類による確認が必要です。
- ◆「特定期間」は、ご提出いただいた「時効消滅不整合期間に係る特定期間該当届」により、受給資格期間に算入される期間の月数を表示しています。
- ◆「合算対象期間」と「特定期間」の内訳は、「ねんきん定期便」の「これまでの国民年金保険料の納付状況です」（B-4 国ページ）でご確認ください。

ねんきん定期便

日本年金機構
Japan Pension Service

〒168-8505
東京都杉並区高井戸西3丁目5番24号

様の「ねんきん定期便」です。

この「ねんきん定期便」は、下記の時点で作成しており、
平成 年 月 日までの年金加入記録を表示しています。

国民年金および 一般厚生年金期間	公務員厚生年金期間 (国家公務員・地方公務員)	私学共済厚生年金期間 (私立学校の教職員)
平成 年 月 日	平成 年 月 日	平成 年 月 日

基礎年金番号

公務員共済の加入者番号

私学共済の加入者番号

(お預けの口座は、基礎年金番号と照合してください。)

このお知らせは、見方ガイドの2～3ページをご覧ください。

1. **a** での **b** 加入期間 (老齢年金の受給には、原則として300月以上の加入期間が必要です。)

第1号被保険者 (基礎年金被保険者)	第3号被保険者	国民年金 計 (基礎年金被保険者)	国民年金 (a)	年金加入期間 合計 (本欄は合計欄を除く)	合算対象期間等 (c)	受給資格期間 (d)
月 月 月	月 月 月	月 月 月	月 月 月	(a+b+c)	(d)	(a+b+c+d)

※厚生年金保険 (b)

一般厚生年金 (基礎年金被保険者)	公務員厚生年金 (国家公務員・地方公務員)	私学共済厚生年金 (私立学校の教職員)	厚生年金保険 計	月 月 月	月 月 月	月 月 月
----------------------	--------------------------	------------------------	----------	-------	-------	-------

2. **老齢年金の見込額** (加入状況の変化や毎年の経済状況など様々な要因により変化します。あくまで参考としてください。)

受給開始年齢	歳～	歳～	歳～	歳～
(1) 国民年金				老齢基礎年金
(2) 厚生年金保険	特別支給の老齢厚生年金	特別支給の老齢厚生年金	特別支給の老齢厚生年金	老齢厚生年金
一般厚生年金期間	(報酬比例部分)	(報酬比例部分)	(報酬比例部分)	(報酬比例部分)
公務員厚生年金期間 (国家公務員・地方公務員)	(報酬比例部分)	(報酬比例部分)	(報酬比例部分)	(報酬比例部分)
私学共済厚生年金期間 (私立学校の教職員)	(報酬比例部分)	(報酬比例部分)	(報酬比例部分)	(報酬比例部分)
1年間の受取見込額	円	円	円	円

※このマークは音声コードです。
目の不自由な方に、ご自身の
年金額に関する必要な情報を音声
でご案内します。

B-1

2. 老齢年金の見込額

- ◆老齢年金の受け取りには、原則として300月以上の受給資格期間が必要です。この「ねんきん定期便」の作成年月日時点で300月以上の受給資格期間がない場合は、老齢年金の見込額を表示していません。

- ◆老齢年金の見込額は、現在の加入条件で60歳まで継続して加入したものと仮定して計算しています。
※詳しくは、14ページの説明をご覧ください。

d 「(1) 国民年金」欄

- ◆老齢基礎年金の本来の受給開始年齢である65歳から表示しています。
- ◆老齢基礎年金の見込額は、下記の期間の月数を基に計算しています。
 - ・国民年金の第1号被保険者期間（未納月数を除く）および第3号被保険者期間
 - ・厚生年金保険・船員保険の被保険者期間
- ◆老齢基礎年金の見込額には、付加年金の金額も含まれています。

e 「(2) 厚生年金保険」欄

- ◆老齢厚生年金の本来の受給開始年齢は65歳からですが、厚生年金保険の加入期間が12月以上あり、かつ受給資格期間が300月以上ある場合は、当分の間、60歳から64歳までの老齢厚生年金（特別支給の老齢厚生年金）を受け取ることができます。
※特別支給の老齢厚生年金の受給開始年齢は、お客様の生年月日によって異なります。

- ◆被用者年金制度の一元化により、公務員および私立学校の教職員の保険料や保険給付（共済年金）の計算方法などは、原則として厚生年金保険に統一されました。年金加入記録の管理や保険料の徴収、保険給付（共済年金）の決定や支給などの事務は、引き続き各実施機関（1ページ参照）が行います。このため、一般厚生年金期間、公務員厚生年金期間および私学共済厚生年金期間ごとに計算した老齢厚生年金および特別支給の老齢厚生年金の見込額を表示しています。

- ◆離婚などにより、厚生年金保険の標準報酬が分割対象となった方は、分割後の標準報酬を基に計算しています。

◆定額部分と報酬比例部分

- ・60歳から64歳までの特別支給の老齢厚生年金は「定額部分」と「報酬比例部分」からなっています。
- ・「定額部分」は65歳以降の老齢基礎年金に相当し、「報酬比例部分」は65歳以降の老齢厚生年金に相当します。
- ・「報酬比例部分」は、総報酬制導入前の期間（平成15年3月以前）と導入後の期間（平成15年4月以降）に分けて計算しただけで、合計した金額となります。

◆経過的職域加算額（共済年金）

- ・被用者年金制度の一元化前（平成27年9月以前）の退職共済年金（報酬比例部分）の金額は、老齢厚生年金の給付率率と同等で計算した金額に、別に定められた給付率率を用いて計算した金額を加算したものとなりました。この加算額を「職域加算額」といいます。
- ・被用者年金制度の一元化により年金額の計算方法が老齢厚生年金に統一されたため、被用者年金制度の一元化後の期間（平成27年10月以降）については「職域加算額」が廃止されました。ただし、被用者年金制度の一元化前の期間（平成27年9月以前）については、別途、「経過的職域加算額（共済年金）」として、各共済組合等から支給されます。

◆経過的加算部分

- ・上記のとおり、「定額部分」は65歳以降の老齢基礎年金に相当し、「報酬比例部分」は65歳以降の老齢厚生年金に相当します。ただし、当分の間は、老齢基礎年金の金額より「定額部分」の金額の方が多いため、65歳以降の老齢厚生年金には「定額部分」から老齢基礎年金を引いた金額が加算されます。この加算額を「経過的加算」といいます。

年金額の計算方法の詳細については、日本年金機構のホームページをご覧ください。

「ねんきん定期便」の見方②

(参考) これまでの保険料納付額

a 「(1) 国民年金(第1号被保険者期間)」欄

◆下記の条件で、加入当時の保険料額を基に計算しています。

- ・付加保険料納付済期間は、付加保険料額を含めて計算しています。
- ・国民年金保険料の前納期間は、割引後の保険料額を基に計算しています。
- ・国民年金保険料の追納期間は、加算額を含めた保険料額を基に計算しています。
- ・国民年金保険料の一部免除(1/4免除、1/2免除および3/4免除)期間は、免除後の残余の保険料額を基に計算しています。

b 「(2) 厚生年金保険」欄

◆下記の条件で、加入当時の報酬(標準報酬月額・標準賞与額)に、加入当時の保険料率(掛金率)を乗じて計算しています。

各欄共通

- ・被保険者負担額のみを計算しています。
- ※厚生年金保険料は、各被保険者の標準報酬月額・標準賞与額に保険料率を乗じて計算し、事業主と被保険者が折半して納めることになっています。被保険者負担額は、一般的には事業主が報酬または賞与から控除し、事業主がまとめて納めます。
- ※折半する際の1円未満の端数の取扱いは、お勤め先の会社などによって異なるため、この「ねんきん定期便」では、50銭以下の端数は切り捨て、50銭を超える端数は切り上げて計算しています。
- ・旧三公社(JR、JT、NTT)共済組合の加入期間は、厚生年金保険へ統合された平成9年4月以降の保険料納付額のみを計算しています。
- ・旧農林共済組合の加入期間は、厚生年金保険へ統合された平成14年4月以降の保険料納付額のみを計算しています。

「一般厚生年金期間」欄

- ・育児休業期間で、事業主からの届出により保険料が免除されている期間は、保険料納付額を計算していません。
- ・産前産後休業期間で、事業主からの届出により保険料が免除されている期間は、保険料納付額を計算していません。
- ・3歳未満の子の養育期間で、事業主からの届出により従前標準報酬月額のみなし措置(養育特例)を受けている期間は、みなし措置前の標準報酬月額(実際の標準報酬月額)を基に保険料納付額を計算しています。
- ・厚生年金基金の加入期間は、免除保険料(事業主が厚生年金基金に納める保険料)を除いた保険料納付額を計算しています。

右上へ続く ➡

このお知らせは、見方ガイドの4～5ページをご覧ください。

(参考) これまでの保険料納付額

国民年金保険料(第1号被保険者期間)	
(1) 国民年金	(累計額) 円
厚生年金保険	
(2) 厚生年金保険	厚生年金保険料(被保険者負担額)
一般厚生年金期間	(累計額) 円
公務員厚生年金期間(国家公務員・地方公務員)	(累計額) 円
私学共済厚生年金期間(私立学校の教職員)	(累計額) 円
これまでの保険料納付額【(1)+(2)】	(累計額) 円

【備考欄】

c

お問い合わせ先

『ねんきん定期便・ねんきんネット等専用ダイヤル』

お問い合わせの際は、基礎年金番号をお知らせください。

※お客様の電話番号が050で始まる場合は

0570-058-555 03-6700-1144 (一般電話)

【受付時間】月～金曜日：午前9時～午後7時まで
第2土曜日：午前9時～午後5時まで
※祝日、12月29日～1月3日はご利用いただけません。

ご利用にあたっての留意事項

- ・ナビダイヤルは、一部の固定電話からおかけになる場合は、全国どこからでも利用可能ですがご利用できません。
- ・ただし、一般固定電話以外(携帯電話等)からおかけになる場合は、通話料がかかります。
- ・「0570」の番号の「0」を省略したり、番号間違えを併せて間違い電話になる場合があります。
- ・おかけ間違いのないよう、ご注意ください。
- ・月曜日の休日の翌日や月曜日に連絡が難しい場合は、電話がつながらなくなる場合があります。
- ・おのれまの電話番号はつきやうがやうなっています。
- ・オンライン実業家の検索結果によっては、ご自身の住所が登録されている場合があります。

B-2

2015*****Z

「公務員厚生年金期間(国家公務員・地方公務員)」欄

- ・国家公務員共済組合の加入期間は、標準報酬制度が導入された昭和61年4月以降の保険料納付額のみを計算しています。
- ・国家公務員共済組合の加入期間へ通算された旧三公社共済組合の加入期間は、保険料納付額を計算していません。
- ・地方公務員共済組合の加入期間は、地方公務員共済組合内で掛金率が統一された平成元年12月以降の保険料納付額を計算しています。
- ・国家公務員から地方公務員に転職されている場合または地方公務員から国家公務員へ転職されている場合は、それぞれの期間について、上記の計算方法により保険料納付額を計算しています。
- ・国家公務員共済組合の加入期間で、養育特例を受けている月の保険料納付額は、みなし措置前の標準報酬月額(実際の標準報酬月額)を基に計算しています。
- ・地方公務員共済組合の加入期間で、養育特例を受けている月の保険料納付額は、みなし措置前の標準報酬月額(みなし標準報酬月額および掛金率)を基に計算しています。

「私学共済厚生年金期間(私立学校の教職員)」欄

- ・育児休業期間で、事業主および加入者からの届出により保険料が免除されている期間は、保険料納付額を計算していません。
- ・産前産後休業期間で、事業主および加入者からの届出により保険料が免除されている期間は、保険料納付額を計算していません。
- ・3歳未満の子の養育期間で、事業主からの届出により従前標準報酬月額のみなし措置(養育特例)を受けている期間は、みなし措置前の標準報酬月額(実際の標準報酬月額)を基に保険料納付額を計算しています。

c 【備考欄】

- ◆「退職一時金等返還見込額」が表示されている方は、老齢厚生年金を受け取る権利を有することとなった場合に、この退職一時金等返還見込額(退職一時金に利子相当額を加算した金額)を返還していただくことになります。
- なお、この金額は、あくまで見込額であるため、実際に返還していただく金額と異なる場合があります。詳しくは、各共済組合等にお問い合わせください。

「これまでの『年金加入履歴』です。」の見方①

a 「②加入制度」欄

◆加入した年金制度を表示しています。

国年：国民年金
 厚年：厚生年金保険
 船保：船員保険
 公共：公務員共済制度（国家公務員共済組合または地方公務員共済組合）
 私学：私立学校教職員共済制度

b 「③お勤め先の名称等」欄

◆「②加入制度」欄が「国年」の場合は、被保険者の種別（下表参照）を表示しています。

種 別	該 当 者
第1号被保険者	日本国内にお住まいの20歳以上60歳未満の自営業者、農業・漁業者、学生および無職の方とその配偶者（厚生年金保険（共済組合を含む）に加入しておらず、第3号被保険者でない方）
第2号被保険者	厚生年金保険（共済組合を含む）に加入している方 ただし、65歳以上で老齢基礎年金などを受ける権利を有している方は除きます。
第3号被保険者	第2号被保険者に扶養されている20歳以上60歳未満の配偶者で、原則として年収が130万円未満の方

◆「②加入制度」欄が「厚年」または「船保」の場合は、お勤め先の会社名称（事業所名称）または船舶所有者名を表示しています。

- 年金加入記録を管理する国のシステム（社会保険オンラインシステム）にお勤め先の会社名称（事業所名称）または船舶所有者名が登録されていない場合には、それぞれ「厚生年金保険」または「船員保険」と表示しています。
- 厚生年金保険に統合された旧三公社（J R、J T、N T T）共済組合や旧農林共済組合の加入期間は、加入当時の共済組合名を表示しています。

厚生年金基金の加入期間の表示

厚生年金保険の加入期間のうち、厚生年金基金に加入している期間をカッコ書きで表示しています。

＜厚生年金基金に関するお問い合わせ先＞

「厚生年金基金の加入期間が10年未満」で脱退された方

▶企業年金連合会（企業年金コールセンター） 0570-02-2666（ナビダイヤル）
 ※お客様の電話番号が050で始まる場合は、03-5777-2666

「厚生年金基金の加入期間が10年以上」で脱退された方または「現在加入中」の方

▶現在または当時のお勤め先の会社が加入している厚生年金基金

◆「②加入制度」欄が「公共」の場合は、「公務員共済」と表示しています。

◆「②加入制度」欄が「私学」の場合は、「私学共済」と表示しています。

これまでの『年金加入履歴』です。									
表示されている『年金加入』欄に「おれ」や「い」がないか確認してください。アイドの8～9をご覧ください。									
①番号	②加入制度	③お勤め先の名称等	④資格を 取得した年月日	⑤資格を 失った年月日	⑥加入月数				
1	厚年	厚生年金保険 (基金加入期間)	平成 4. 4. 1	平成 5. 10. 1	18				
2	国年	第1号被保険者 (空いている期間があります。)	平成 5. 10. 1	平成 7. 4. 1	18				
3	厚年	東京株式会社	平成 7. 10. 1	平成16. 4. 1	102				
4	国年	第3号被保険者	平成16. 4. 1		120				

⑦国民年金 (a)									
第1号被保険者	第2号被保険者	第3号被保険者	第4号被保険者	第5号被保険者	第6号被保険者	第7号被保険者	第8号被保険者	第9号被保険者	第10号被保険者
14	0	0	0	0	120	134	(0)	1	0
⑧厚生年金保険 (b)									
一般厚生年金(厚年)	公務員厚生年金(公共)	船員厚生年金(船保)	私立学校共済(私学)	厚生年金保険(計)	国民年金(国年)	厚生年金保険(厚年)	国民年金(国年)	厚生年金保険(船保)	国民年金(国年)
加入月数 (厚年)	加入月数 (公共)	加入月数 (船保)	加入月数 (私学)	加入月数 (計)	加入月数 (国年)	加入月数 (厚年)	加入月数 (国年)	加入月数 (船保)	加入月数 (国年)
120 (18)	120 (18)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	120 (18)	120 (18)	254 (36)	3 (0)	257 (36)

※納付記録内に保険料未納の記録がある場合は、()内に保険料未納月数を記載します。

c 「④資格を取得した年月日」欄

◆年金制度に加入した年月日を表示しています。

d 「⑤資格を失った年月日」欄

◆年金制度に加入しなくなった年月日（退職した日などの翌日）を表示しています。
 現在加入中の場合は、空欄となります。

e 「⑥加入月数」欄

◆「②加入制度」欄の年金制度ごとの加入月数を表示しています。
 なお、被保険者の資格を失った年月日の属する月は、加入月数には算入されません。

◆「③お勤め先の名称等」欄が国民年金の「第1号被保険者」の場合は、国民年金保険料の納付済月数と未納月数の合計月数を表示しています。

◆現在加入中の年金制度の場合は、この「ねんきん定期便」の作成年月日の前々月までの月数を表示しています。

「これまでの国民年金保険料の納付状況です。」の見方

① 「納付済月数等の内訳」欄

- ◆年度別に次の月数を表示しています。
- ◆「①納付」欄
 - ・国民年金保険料を納めている月数または第3号被保険者として登録されている期間の月数です。
- ◆「②免除」欄
 - ・国民年金保険料の全額免除を受けている月数および一部免除（半額免除、3／4免除および1／4免除）を受けている月で、免除後の残余の保険料を納めている月数です。
- ◆「③学生納付特例等」欄
 - ・学生納付特例制度または若年者納付猶予制度の適用を受けている期間（以下「学特等期間」といいます）の月数です。
 - ・学特等期間のうち国民年金保険料を追納しなかった期間については、老齢年金の受給資格期間には算入されますが、年金額には反映されません。
- ◆「④計」欄
 - ・①～③の合計月数です。

⑤ 「⑤未納」欄

- ◆国民年金保険料を納めていない月数です。
- ◆この「未納」には、第3号被保険者から第1号被保険者への種別変更の届出が立て、国民年金保険料の納付期限の2年を経過したことににより、未納となっている期間が含まれている場合があります。この期間は、届出により「受給資格期間」に算入できることとなりました。お心当たりの方は、お近くの年金事務所にお問い合わせください。
- ◆一部免除（半額免除、3/4免除および1/4免除）を受けている月であるが免除後の残金の保険料を納めていない月数を含みます。
- ◆国民年金に任意加入している期間のうち保険料を納めていない期間（任意加入未納期間）の月数は、「⑥合算期間等」欄に表示しています。

③ 「⑥合算対象期間等」欄

- ◆「合算対象期間」および「特定期間」の合計月数を表示しています。年金額には反映されませんが、受給資格期間に算入されます。
- ◆「合算対象期間」となる期間に複数ありますが、この「ねんきん定期便」では、国民年金に任意加入している期間のうち保険料を納めていない期間（任意加入未納期間）の月数を表示しています。
※この任意加入未納期間は参考であり、年金を請求するときに書類による確認が必要です。
- ◆「特定期間」は、ご提出いただいた「時効消滅不整合期間に係る特定期間該当当届」（2ページ参照）により、受給資格期間に算入される期間の月数を表示しています。

[illegible]

④ 「月別納付状況」欄

表示	説明
納付済	国民年金保険料を納めている月の表示です。 (国民年金保険料が免除や猶予された後に追納した場合も含みます。)
未納	国民年金保険料を納めていない月の表示です。 (または「ねんきん定期便」の作成時点で納付が確認できない月です。)
／	国民年金に加入していない月の表示です。 厚生年金保険(各共済組合制度を含みます。)に加入している月も同様です。
3号	国民年金の第3号被保険者として登録されている月の表示です。
全免	国民年金保険料の納付が全額免除されている月の表示です。
半免	国民年金保険料の納付が半額免除されていて、免除後の残りの保険料を納めている月の表示です。
半未	国民年金保険料の納付が半額免除されていて、免除後の残りの保険料を納めていない月の表示です。(未納期間です。)
3／4免	国民年金保険料の納付が3／4免除されていて、残りの1／4の保険料を納めている月の表示です。
3／4未	国民年金保険料の納付が3／4免除されていて、残りの1／4の保険料を納めていない月の表示です。(未納期間です。)
1／4免	国民年金保険料の納付が1／4免除されていて、残りの3／4の保険料を納めている月の表示です。
1／4未	国民年金保険料の納付が1／4免除されていて、残りの3／4の保険料を納めていない月の表示です。(未納期間です。)
学特等	学生納付特例制度または若年者納付猶予制度の適用を受けている月の表示です。
付加	付加保険料を納めている月の表示です。
合算	国民年金の任意加入期間のうち保険料を納めていない月の表示です。 参考情報であり、年金を請求するときに書類による確認が必要です。
特定	ご提出いただいた「時効消滅不整合期間に係る特定期間該当届」により、「特定期間」として、受給資格期間に算入される月の表示です。

※納付期限内に国民年金保険料を納めた場合であっても(口座振替も同様)、情報が反映されるまでに最大3週間程度かかることがあるため、「未納」と表示されることがあります。

「ねんきん定期便」の「2. 老齢年金の見込額」について

「2. 老齢年金の見込額」の計算の基となる年金加入期間

- ◆現在の加入条件に応じて、次のとおり60歳まで年金加入期間を延長しています。
◆61歳以上の方は、「ねんきん定期便」の作成月時点の年金加入記録を基に計算しています。

◆国民年金に加入中の方

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 60歳
 (基準月) (作成月) (発送月) ... 到達月

加入例①

納付済	納付済	納付済			
			60歳までの仮定の延長期間		
「ねんきん定期便」に表示する期間					
			納付済 納付済 納付済 納付済 納付済 ... 納付済		

加入例②

納付済	免除	免除			
			60歳までの仮定の延長期間		
「ねんきん定期便」に表示する期間					
			免除 免除 免除 免除 免除 ... 免除		

加入例③

納付済	未納	未納			
			60歳までの仮定の延長期間		
「ねんきん定期便」に表示する期間					
			納付済 納付済 納付済 納付済 納付済 納付済 納付済 ... 納付済		

◆厚生年金保険に加入中の方

「ねんきん定期便」の作成年月日時点の標準報酬で、60歳まで加入したと仮定しています。

「ねんきんネット」をご利用ください

◆「ねんきんネット」の「年金見込額試算」では、

- ・今後の給付や賞与などの収入が増えた（減った）場合
- ・未納となっている国民年金保険料を納めた場合
- ・年金を繰り上げて（繰り下げて）受け取る場合
- ・働きながら（厚生年金保険に加入しながら）年金を受け取る場合

など、様々な条件を設定して年金見込額を試算することができます。

ぜひ、「ねんきんネット」をご利用ください。

＜試算条件の設定画面＞ ＜試算結果画面＞

[illegible]

＜試算結果画面＞

年報	総年の年収と 年金受給額の 合計	年金受給額				給与の年収
		支給される 年金受給額 合計	基礎年金 部分	特別給付の受給厚生 年金・老齢厚生年金 部分	国民年金 部分	
40	3,380,000円	0円	0円	0円	0円	3,380,000円
41	3,360,000円					
42	3,340,000円					
43	3,320,000円					
44	3,300,000円					
45	3,280,000円					
46	3,478,096円	2				
47	3,478,096円	2				
48	3,478,096円	2				
49	3,478,096円	2				
50	3,478,096円	2				
51	3,478,096円	2				
52	3,478,096円	2				
53	3,478,096円	2				
54	3,478,096円	2				
55	3,478,096円	2				
56	3,478,096円	2				
57	3,478,096円	2				
58	3,478,096円	2				
59	3,478,096円	2				
60	3,478,096円	2				
61	3,478,096円	2				
62	3,478,096円	2				
63	3,478,096円	2				
64	3,478,096円	2				
65	3,478,096円	2				
66	3,478,096円	2				
67	3,478,096円	2				
68	3,478,096円	2				
69	3,478,096円	2				
70	3,478,096円	2				
71	3,478,096円	2				
72	3,478,096円	2				
73	3,478,096円	2				
74	3,478,096円	2				
75	3,478,096円	2				
76	3,478,096円	2				
77	3,478,096円	2				
78	3,478,096円	2				
79	3,478,096円	2				
80	3,478,096円	2				
81	3,478,096円	2				
82	3,478,096円	2				
83	3,478,096円	2				
84	3,478,096円	2				
85	3,478,096円	2				
86	3,478,096円	2				
87	3,478,096円	2				
88	3,478,096円	2				
89	3,478,096円	2				
90	3,478,096円	2				
91	3,478,096円	2				
92	3,478,096円	2				
93	3,478,096円	2				
94	3,478,096円	2				
95	3,478,096円	2				
96	3,478,096円	2				
97	3,478,096円	2				
98	3,478,096円	2				
99	3,478,096円	2				
100	3,478,096円	2				

① 国民年金
② 厚生年金
③ 介護保険料
④ 健康保険料
⑤ 所得税
⑥ 住民税
⑦ 消費税
⑧ 酒類消費税率
⑨ 食料品消費税率
⑩ 電気料金
⑪ ガス料金
⑫ 水道料金
⑬ 電話料金
⑭ インターネット料金
⑮ 交通機関料金
⑯ 娯楽料金
⑰ 教育費
⑱ 医療費
⑲ 介護費用
⑳ その他

年金の制度・用語に関する説明

受給資格期間

- ◆老齢年金の受け取りには、原則として25年(300月)以上の年金加入期間および合算対象期間が必要です。
 [保険料納付済期間 + 保険料免除期間など(※) + 合算対象期間(カラ期間) = 25年(300月)]
 (※) 保険料免除期間のほか、学生納付特例制度や若年者納付猶予制度の適用を受けている期間も「受給資格期間」に含まれます。ただし、年金額には反映されません。

合算対象期間（カラ期間）

- ◆年金制度への加入が任意であったため、年金制度に加入していなかった期間などのことをいいます。
例えば、２０歳から６０歳までの期間で、次の①～③に該当する期間などです。
- ①昭和６１年３月以前のサラリーマンの配偶者であった期間
 - ②海外に在住していた期間
 - ③平成３年３月以前の学生であった期間

◆合算対象期間（カウ期間）は、受給資格期間には含まれますが、年金額には反映されません。

(A子さんの例)

20歳 卒業 就職 退職・結婚 昭和61年4月 国外転居 帰国

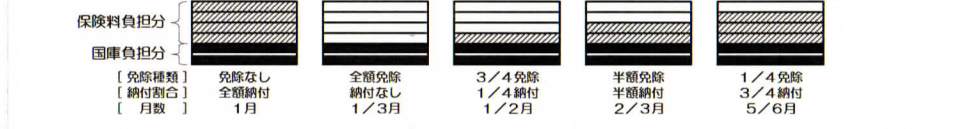
学生 任意加入しな かった期間	アルバイト 未納	会社員 厚生年金	会社員の妻(被扶養配偶者)		自営業 海外在住	自営業 納付
カラ期間 2年	未納期間 3年	納付済期間 2年	カラ期間 5年	納付済期間 7年	カラ期間 5年	納付済期間 4年

〇 受給資格期間を計算するとき = 25年 ■ 年金額を計算するとき = 13年

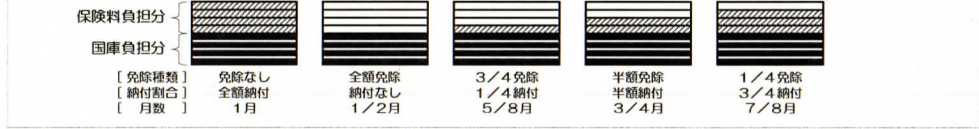
保険料免除期間の月数の考え方

- ◆保険料免除期間がある方の「保険料納付済期間」の月数は、免除の種類による保険料の負担額に応じて、次のとおり計算されます。なお、全額免除の場合でも、国庫負担分の年金が受け取れます。

- ・平成21年3月以前の期間については、国庫負担1/3で計算されます。



- ・平成21年4月以降の期間については、原則として、国庫負担1/2で計算されます。



保険料未納期間などがある方へ

- ◆国民年金保険料は、納付期限から2年を過ぎると、時効により納めることができなくなります。
保険料未納期間がある場合は、お早めに保険料をお納めください。
- ・保険料免除期間や学生納付特例制度、若年者納付猶予制度の適用を受けている期間は、10年以内であれば、さかのぼって保険料を納めること（追納）ができます。
- ※一部免除（半額免除、3/4免除および1/4免除）の期間については、免除により減額された保険料を納付している期間に限りです。
- なお、3年目に降に追納する場合は、免除当時の保険料の額に加算額が上乗せされます。
- ・過去5年以内に保険料未納期間がある方は、申出により、平成27年10月から平成30年9月までの3年間に限り、保険料を納めること（後納）ができます。